

主題：イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

メッセージ 3

イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことは、彼がこの世で、愛である神の命を生きていたのと同じことであり、わたしたちはその命をもって彼を愛し、互いに愛し合う

聖書：Ⅰヨハネ4:8, 16-19. ヨハネ21:15-17. Ⅰペテロ2:25. 5:1-4.

Ⅰコリント12:3後半—13:8前半

I. わたしたちが神から受けてきた命は愛の命です。キリストはこの世において、愛である神の命を生きて、今や彼はわたしたちの命ですが、それはわたしたちがこの世において、同じ愛の命を生きて、彼と同じになるためです——Ⅰヨハネ3:14. 5:1. 2:6. 4:17:

A. 神の愛は神ご自身ですが、愛は神の内側の本質であり、神の心です。わたしたちは再生されて、神の種族、神の種類となりましたが（ヨハネ1:12-13）、神は愛です（Ⅰヨハネ4:8, 16）。わたしたちは神格においてではなく、彼の命と性質において神となっているのですから、わたしたちもまた愛するべきです。これは、わたしたちがただ他の人たちを愛することを意味するのではなく、わたしたち自身が愛であるということです。

B. わたしたちは自分自身を神の愛の中に保ち、キリストの愛に押し迫られて、兄弟たちのために自分たちの命を犠牲にしなければなりません——ユダ19-21. Ⅱコリント5:14. Ⅰペテロ1:22. 3:8-9. Ⅱテサロニケ3:5. Ⅰヨハネ3:14-16. 4:7-21。

C. 神がまずわたしたちを愛して、彼の愛をわたしたちに注入し、わたしたちの内側に愛を生み出しましたが、わたしたちはそれをもって彼を愛し、また兄弟たちを愛さなければなりません（19-21節）。神の中に住むことは、神ご自身である愛をもってわたしたちが他の人たちを習慣的に愛する生活をするということです。それによって彼はわたしたちの中で表現されます——16-17節. 英文詩歌546番と547番。

D. 「わたしを引き寄せてください。わたしたちはあなたの後を走ります」（雅1:4前半）。
「わたしは人の綱、愛のきずなで彼らを引いた」（ホセア11:4）:

1. 「人の綱、愛のきずなで」という句が示しているのは、神がわたしたちを彼の神聖な愛で愛するのは、神性の水準においてではなく、人性の水準においてであるということです。神の愛は神聖なものですが、それがわたしたちに届くのは、人の綱において、すなわち、キリストの人性を通してです。

2. 神がわたしたちを引くための綱は、キリストの肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を含みます。キリストの人性におけるこれらすべての段階によって、神の救いにおける彼の愛がわたしたちに届きます——ローマ5:5, 8. 8:35-39。

II. 牧養についての章であるヨハネ第21章は、ヨハネによる福音書の完成であり成就で

す——15-17節：

- A. ヨハネによる福音書は、キリストがわたしたちをはぐくみ養うことによって、来てわたしたちの命となることについての書です。人をはぐくむとは彼らを幸いにし、楽しくさせ、心地良くさせることであり（マタイ9:10. ルカ7:34）、人を養うとはすべてを含むキリストを彼らに供給することです（マタイ24:45-47）：
1. 神・救い主としてのキリストは、ナタナエルによって神の子と認められ、主はナタナエルに、天が開け、ヤコブが夢の中で見た天のはしごのように、神の御使いたちが人の子としての彼の上を上り下りするのを見ると答えました。これは、ナタナエルが彼に従って、ヨハネによる福音書全体に啓示されているように、神聖な権益のすべてを伴う彼の養いにあずかるように励ます、一種のはぐくみでした——1:45-51。
 2. 神・救い主としてのキリストは、不道德なサマリアの女を救うことを願った時、ユダヤからガリラヤへサマリアを通して旅をし、サマリアの主要道路からスカルの町に回り道をして、スカルの近くのヤコブの井戸のそばで、彼の対象が来るのを待たなければなりません。それは、彼が飲む物を与えるよう彼女に求めることによって彼女をはぐくみ、そして、流れる三一の神ご自身である命の水で彼女を養うためでした——4:3-14。
 3. 非難するパリサイ人のだれも姦淫の女を罪定めすることができなかった時、神・救い主としてのキリストは彼の人性の中で、彼女に「わたしもあなたを罪に定めない」と言って彼女をはぐくみ、彼が大いなる「わたしはある」として、彼女を罪からの解放をもって養って、彼女が「もう罪を犯」さないことができるようにしました——8:3-11, 24, 34-36。
- B. 主は、復活の後ペテロを牧養して、彼に主の小羊を養い、主の羊を牧養するように委託しました。これは、使徒の務めをキリストの天の務めと合併させて、神の群れである召会を顧みることであり、それはキリストのからだという結果になります——21:15-17：
1. ペテロは自分の天然の力と能力に自信を持っており、自分は牢獄と死に至るまでも主に従うことさえできると考えていました。しかし、彼は小さな女中の前でさえ主を三度否みました——ルカ22:33. ヨハネ18:15-18, 25-27。
 2. ペテロは徹底的に打ち倒されて、完全に失敗しましたが、それは彼が、自分が全く信頼に値せず、もはや自分自身に自信を持つべきではないことを認識するためでした——マタイ26:69-75. 参照、ピリピ3:3。
 3. 奴隷・救い主の復活を発見した三人の姉妹たちに対する御使いの伝言は、彼女たちが「行って、弟子たちとペテロに告げ」ることでした——マルコ16:7. 参照、I ペテロ5:13。
 4. 「とペテロ」という句は、ペテロが失敗し、つまずき、墮落しても、主は彼を見捨てていなかったことを示しています。「とペテロ」はまた、「とあなた」、すなわち、ペテロのように失敗したことのあるあなたを意味しています。
 5. どうかわたしたちすべてが、主がわたしたちに対してどのような心を持っているかを見ますように。彼があなたを愛さないこと、彼があなたを忘れること、彼が

あなたを見捨てることは、不可能です——ゼカリヤ2:8. イザヤ49:15-16。

C. ペテロは主のこの委託にとっても印象づけられたので、彼の第一の手紙で信者たちに、彼らは羊のようにさまよっていたが、今は、彼らの魂の牧者また監督者（キリスト）に立ち返ったと告げています——Ⅰペテロ2:25。

D. 彼は長老たちに、彼らの間の神の羊の群れを牧養するよう勧めています。それによって、牧者の長が現れる時、彼らは、しばむことのない栄光の冠を受けます（5:1-4）。ペテロの言葉が示しているのは、キリストの天の務めはおもに神の召会を牧養することであり、その召会は彼の羊の群れであり、彼のからだという結果になるということです。

E. キリストの天の務めと合併された使徒の務めの主要な目的また目標は、キリストのからだを建造することであり、それは新エルサレムを究極的に完成し、神の永遠のエコノミーを完成します。

Ⅲ. 愛は、わたしたちの間で優勢でなければなりません。キリストの有機的なからだである召会の建造のために、わたしたちが何であろうと、何を行なおうと、愛が最も卓越した道です——Ⅰコリント12:31後半—13:8前半：

A. わたしたちはキリストの愛にあふれ、押し流されている人たちでなければなりません。神聖な愛はわたしたちに対して大水の強烈な潮の流れのようであって、わたしたちを極みに至るまで、自分を抑えることができないほど彼に生きさせ、彼を愛させるべきです——Ⅱコリント5:14。

B. 極みに至るまで主を愛し、互いに愛し合うために、わたしたちは愛である神を日ごとに注入されて、わたしたちの命の日の限り、神の家に住んで、彼の麗しさ（愛らしさ、楽しさ、すばらしさ）を見つめ、彼の宮で神を尋ね求める者たちである必要があります。彼の宮で神を尋ね求めるとは、わたしたちの日常生活におけるあらゆることについて神に相談することです——詩27:4。

C. Ⅰコリントでパウロが述べている愛は、神聖な命の表現です（4-8節）。しかも、愛がその霊の実であるという事実が示しているのは、愛の実質がその霊であるということです（ガラテヤ5:22）。もしわたしたちに愛がなければ、わたしたちの語りかけは鳴り響く鐘や騒がしいシンバルのように、命のない言葉です（Ⅰコリント13:1, 14:1, 3, 4後半）。

D. 愛はねたまず、いらだたず、人の悪を数えたえず、すべてを覆い、すべてを耐え忍び、決して絶えることがなく、最も大いなるものです——13:4-8, 13。

E. わたしたちは他の人たちを愛することで神のようであって、いかなる分け隔てもなく人々を愛するべきです（マタイ5:43-48）。キリストの十字架を通して彼によって救われた最初の人々は死刑を宣告された犯罪人、強盗でした。これは非常に意味深いです（27:38. ルカ23:42-43）。

Ⅳ. わたしたちの霊の中の命の霊の法則は、愛の法則であるキリストの法則です（ローマ8:2. ガラテヤ6:2-3）。愛の法則は命の霊の法則によって置き換えられなければなりません。それは、わたしたちが互いに重荷を負い合うことができるためです。しかし、もしわたしたちが高ぶりによって満たされているなら、他の人たちの重荷を担うことはできないでしょう。なぜなら、わたしたちが無であるとき、自分が何者かであると

考えることによって自分自身を欺いているからです（3節）：

- A. 愛の法則がわたしたちの内側で作動するとき、わたしたちは自動的に、自然に牧者となって、わたしたちの父なる神の愛し赦す心と、わたしたちの救い主キリストの牧養し捜す霊を持ちます——ヨハネ21:15-17. ルカ15:3-7。
- B. 愛の法則がわたしたちの内側で作動するとき、主の中でのわたしたちの労苦は愛の労苦であり（Ⅰコリント15:58. Ⅰテサロニケ1:3）、「弱い人たちを支え（support）」（使徒20:35）、「弱い者を支え（sustain）」（Ⅰテサロニケ5:14）ます。「弱い者」とは、霊や魂や体において弱い者たちか、信仰において弱い者たちを指します（ローマ14:1. 15:1）。
- C. わたしたちの神が与え、再生された霊は、愛の霊です。わたしたちは今日の教会の墮落に勝つために、燃える愛の霊を必要とします——Ⅱテモテ1:7。
- D. まことのぶどうの木であるキリストの枝として、わたしたちは互いに愛し合って、実を結ぶことにおいて神聖な命を表現する必要があります——ヨハネ15:12-17。
- E. 召会生活は兄弟愛の生活であり（Ⅰヨハネ4:7-8. Ⅱヨハネ5-6. ヨハネ15:12, 17. 啓3:7. エペソ5:2. 参照、ユダ12前半）、からだは愛の中でそれ自身を建て上げます（エペソ4:16）。
- F. 「知識は人を思い上がらせますが、愛は人を建造します」。わたしたちは務めのメッセージを聞いて、単なる知識で思い上がってしまうかもしれません——Ⅰコリント8:1後半. 参照、Ⅱコリント3:6。
- G. 互いに愛し合うことは、わたしたちがキリストに属していることのしるしです（ヨハネ13:34-35）。愛することで召会において一番になることは、すべての兄弟を愛することと相反しています（Ⅲヨハネ9）。
- H. 主イエスが彼の魂の命を犠牲にしたのは、わたしたちが神聖な命を持つためであったように、わたしたちは自分の魂の命を失い、自己を否み、兄弟たちを愛して、供給する命を親密に気づかいつつ彼らに命を供給する必要があります——Ⅰヨハネ3:16. ヨハネ10:11, 17-18. 15:13. エペソ4:29—5:2. ローマ12:9-13. Ⅱコリント7:2-7. 12:15. ピレモン7, 12。
- V. 詩篇第22篇から第24篇は、十字架から来たるべき時代における彼の王職に至るキリストを啓示しています。詩篇第22章でわたしたちが見るのは、キリストの死と、彼の復活と、彼の復活において生み出された彼の多くの兄弟たちが彼の召会を形成することです。詩篇第23篇でわたしたちが見るのは、復活における牧者としてのキリストです。そして詩篇第24篇でわたしたちが見るのは、王国における来たるべき王としてのキリストです：
- A. これら三つの詩篇が見せているのは、過去のキリストの死と復活と、将来キリストが彼の王国における王として再来されることの間には、現在の霊なる牧者であるキリストの享受と経験と表現があります。
- B. この事が啓示しているのは、牧養することがキリストの一回目の来られることと、二度目に来られることをつなぐ橋であるということです。天の務めにおいて、キリストは現在人々を牧養しています。そして、もしわたしたちが彼のすばらしい牧養にあずかるなら、主の回復において大きな復興、新しい復興があつて、キリストの再来をもたらすでしょう。